

アイカ工業は11月29日、名古屋市中区のウエスティンナゴヤキャッスルで、建築家の青木茂氏を招き「リファイニング建築とは」をテーマに講演会を開いた。設計者、施工者



ら建設業界関係者約250人が参加、青木氏が普及を進めている工法の説明を聞いた。リファイニング建築は、躯体から不要な部分を撤去し、十分に軽量化した上で補修・補強を加えて耐震性能・内外装・設備・用途を一新するもの。既存躯体を再利用するこ

とで、工期短縮につながり、建設コストを抑えられるほか、改修のたびに今後の使用用途について検討を行うことで、時代に適合した建築へと刷新できる。リファイニングの特徴として、躯体の補修箇所、耐震性、美観性を記録した「家履歴」を

作成することで、建築としてリノベーションという概念の強度・性能を向上させ、新築はマンションの一室などの改修により価値の創造が行われたものにできるという。当日は、青木氏が手掛けた

（工費が）高くなるが、次の要がある」と述べた。写真。改修までの期間が従前の方法より長くなり、およそ30年間の継続利用が期待できる」と述べ、今後のインフラ改修に期待される長寿命化に当たっては、「時間をどうデザインするか」を考えなくてはならないとした。

## アイカ工業 「建築再生学」必要 青木氏招き講演会

工事の各事例を紹介したあとも「法的裏付け、耐震的義について言及。「リフォーグ建築は法的な裏付けを取りムは床や天井など室内の一部ながら耐震補強を施すため、を改修すること。これに対し必然的に普通の改修よりも

今後の課題としては、「全国的に耐震化には補助金を出しているが、各地域の事例を集めデータベース化し、再生建築の基礎資料を集めること」で、『建築再生学』を作る必

以上S造建築では有効である。免震化は柱の数が多く工費がかかりすぎるため、可能性はあるが、経済的には難しい。また、制震装置も中層

以上のS造建築では有効である。免震化は柱の数が多く工費がかかりすぎるため、可能性はあるが、経済的には難しい。また、制震装置も中層